

研究代表者氏名	若月 利之			研究組織	4人	
所属機関・部局・職	島根大学・生物資源科学部・教授			所属機関所在地	松江市	
研究課題名	西アフリカの食糧増産と劣化環境修復のための集水域生態工学					
研究の概要等	<p>過去 16 年、JICA 研究協力や科研、あるいは国際熱帯農業研究所（IITA）の支援も受けながら、ナイジェリアのギニヤサバンナ帯、ガーナの森林移行帯集水域をベンチマークサイトとして、低地における各種水田稲作とアップランドにおける各種の混作とアグロフォレストリー技術を農民参加により実証し、特に、低地における水田生態工学技術がこの地の劣化集水域を修復するカギとなることを明らかにしてきた。水田開発は高機能の湿地造成であり、集水域生態系修復のカギとなる本研究では「水田仮説」（低地における水田の単位面積当たりの持続的生産性は畑作地の 10 倍以上である）を「地質学的施肥プロセス（集水域の森林畑地よりの低地への物質フロー）」の評価も加えて証明し、今後 50 ～ 100 年で、アフリカにおける 2000 万 ha の水田開発と、それによる食料増産を背景に、2 億 ha の森林再生プログラムを提案したい。又、最近、有機物資源を安定で高機能な腐植物質に転換する技術のプロトタイプを本研究グループが開発した。これは有機物の急速な分解がネックとなっていた熱帯圏の畑土壌の修復のための革命的な技術になり得る。我が国は TICAD（東京アフリカ開発会議）を主催しているが、本研究の成果を生かして、地球環境保全と南北格差を是正しながら、新しい地球社会を創るために行うべき、21 世紀の日本の国際貢献の中核活動（日本のアイデンティティの確立のために）の一つとしたい。</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	<p>廣瀬昌平・若月利之編著「西アフリカサバンナの生態環境の修復と農村の再生」農林統計協会、1997 年</p> <p>Hirose and Wakatsuki, ed. "Restoration of Inland Valley Ecosystems in West Africa", Nourin-Toukei-Kyoukai, 2002</p>					
研究期間	平成 15 年度～19 年度（5 年間）					
研究経費（16 年度以降は内約額）	平成 15 年度 千円 22,700	平成 16 年度 千円 17,000	平成 17 年度 千円 16,200	平成 18 年度 千円 15,700	平成 19 年度 千円 15,700	合計 千円 87,300
ホームページアドレス	http://www.soil-shimane-u.tpj.co.jp/ifontisv2/index.htm http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/ecotech/index.html					